

スルメイカ

生態的特徴等

【生態】

日本海を含む北西太平洋に広く分布する。生まれる時期の違いから主に冬季発生系群と秋季発生系群に分けられ、茨城県で漁獲されるのは主に冬季発生系群である。本系群は冬季に東シナ海で発生し、主に太平洋を北上しながら成長し、成熟が進む秋・冬季には主に日本海を南下する。

寿命は1年で、孵化後4カ月で外套長約7cm、5カ月で約11cm、6カ月で約16cm、7カ月で約20cm、8カ月で約23cm、9カ月で約25cm、10カ月で約26cm程度となる（図1）。主要な餌料は小型魚類や甲殻類である。

【漁法と盛期】

茨城県では主に底曳網で漁獲され、主な漁期は秋～冬季である。

【利用】

刺身、煮物、焼き物、揚げ物など、幅広く賞味される他、様々な加工品の原料として利用される。低カロリー、低脂肪、高タンパクの食材であり、タウリンやEPA、DHAなども含まれている。

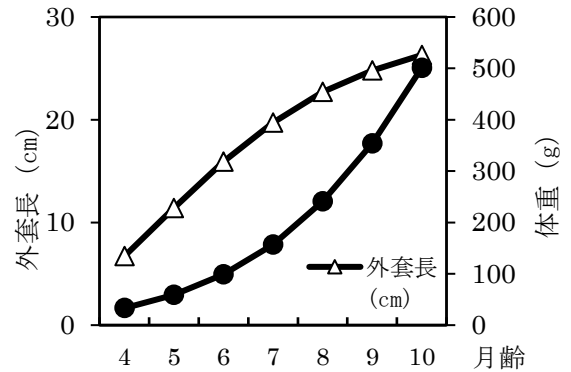


図1 スルメイカの月齢と成長（冬季発生系群）
（令和7年度スルメイカ資源評価より引用）

資源水準は低位、動向は横ばい傾向

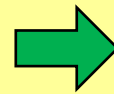
（漁獲量）全国の漁獲量は、H1年漁期以降増加し、H8年には40万トンとなった。その後は比較的安定して推移してきたが、H28年以降大きく減少しており、R6年の漁獲量は1.6万トンであった（図2）。県内漁港における漁獲量は、回遊状況に影響されることから年によって変動があり、近年では概ね40～200トン前後で推移している。R6年は45トンの漁獲があった（図3）。

（水準と動向）国の資源評価（R7年度）によると、資源水準は「限界管理基準値を下回る」、動向は「横ばい」とされている。

水準



動向



（国）

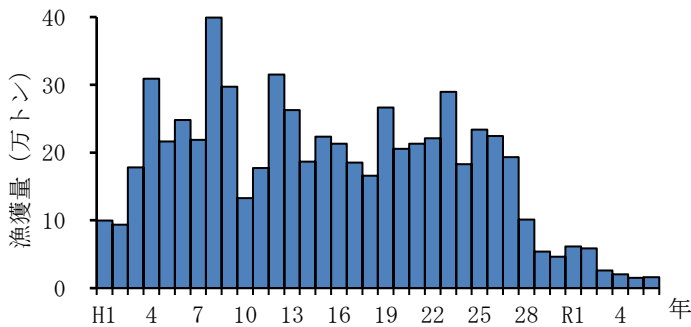


図2 全国のスルメイカ漁獲量（漁期年、水産資源研究所集計）

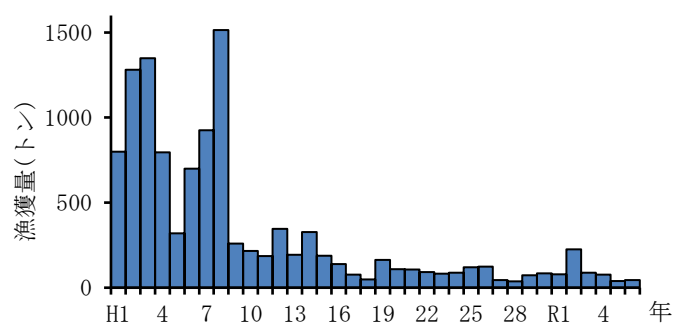


図3 茨城県のスルメイカ漁獲量（水試システム、底曳網、漁期年、属地）

【全国の漁獲動向】

- ・青森県が漁獲量1位、2位は北海道、3位は岩手県（R6 漁業・養殖業生産統計）

評価期間：令和6年4月～令和7年3月 更新日：令和8年3月19日

引用：岡本 俊・松井 萌・宮原寿恵・森山丈継・西澤文吾・倉島 陽・高崎健二・瀬藤 聡(2025) 令和7(2025)年度スルメイカ冬季発生系群の資源評価。我が国周辺水域の漁業資源評価。水産庁・水産研究・教育機構，東京，74pp, https://www.fra.go.jp/shigen/fisheries_resources/meeting/stock_assessment_meeting/2025/files/sa2025-sc16/fra-sa2025-sc16-01.pdf.